

こいずみ
小泉 あつし
報

香川県議会議員・無所属・議会/県政報告

2023
- 第二号 -

初めての一般質問

みなさま、こんにちは。9月定例会では、私は総務委員会での質問と一般質問が割り当てられました。私にとって初めての一般質問は、小豆郡に関わる内容が中心となりました。小豆にあふれる資源を見直し、磨き上げていくことで、全国にその魅力を発信し、多くの人が訪れたくなり、住みたくなる島にする「ゼロアイランド構想」を知事に提起しています。また、今まで通り小豆郡でお産ができるよう、県としてどう取り組むかについて質問しました。

現在 小泉あつしが所属する委員会

● 総務常任委員会

● デジタル田園都市推進特別委員会

● 広報委員会

9月議会の小泉あつしの質問（1~5 一般質問 _ 6・7 総務委員会代表質問）

- 1_ 高齢者や障害者の境界線のない共生型社会の実現「ゼロ・ボーダー」ー共生型サービスの拡充・推進について
- 2_ 無農薬の有機農業の普及「ゼロ・ケミカル」ー有機農業の普及・拡大について
- 3_ 発酵食品による免疫力強化を通じた発病予防「ゼロ・ディーズ」ー発酵食品関連産業の活性化について
- 4_ 再生可能エネルギーの導入促進による脱炭素化「ゼロ・カーボン」ー小水力発電の導入検討について
- 5_ 小豆医療圏における周産期医療体制の整備について
- 6_ 私立高校の保護者が負担する学費への県からの支援について
- 7_ 災害ボランティアセンターの設置及び運営に係る協定について

小泉あつしの掲げる ゼロアイランド構想 とは？

小豆郡の島々は四季 それぞれにおりなす豊かな自然と海と山に恵まれた島です。

この世界で最も魅力のある場所の一つである 瀬戸内海の島に暮らす人の生活に目を向けますと、人口減少、産業の不振、交通の便の悪化、医師や福祉サービスの不足、耕作放棄地など多くの課題を抱えているのが現状です。このことは 離島に限らず 過疎化している全国の地方 共通の課題です。

こうした地方の課題を解決する手段として まずは 小豆島からその恵まれた資源を最大限に活用して ゼロアイランド構想を提案します。

共生型サービスの拡充・推進は、福祉の境界を取り除き、赤ちゃんから高齢者まで障害の有無を問わず福祉の拠点となる古民家が小豆島の各地にあり、誰もが安心して暮らせる環境を作る「ゼロポーター」

有機農業の普及拡大は、三豊市が先進的に取り組みを開始したオーガニックビレッジを小豆島にも横展開して、化学合成肥料や農薬を使わない環境に優しい農業の普及拡大を目指す「ゼロ・ケミカル」

発酵食品研究所の機能強化により新たな発酵食品 発酵飲料 発酵調味料の開発に取り組み、小豆島で普及することで島民の免疫力を高めて健康寿命を伸ばし、発病予防する「ゼロ・ディーズ」

小豆島が脱炭素先行地域として選定され、豊富な再エネ導入ポテンシャルを活用して太陽光発電、蓄電池、小水力発電の導入を進めエネルギーを地産地消できるよう島全体を脱炭素化する「ゼロ・カーボン」制度・分野の枠を超えて 自立に向けて 人と社会が有機的につながり、助け合いながら発展していくことのできる場として、小豆島が新しいローカルのあり方のモデルとする「ゼロアイランド構想」をどう実現するかを今後とも模索していきたいと思っています。



9月の議会スケジュール

- 9/14(木) 本会議 開会提案理由説明 委員長報告
- 9/19(火) 本会議 代表質問 決算行政評価特別委員会設置
- 9/20(水) ┌ 委員会 総務委員会
- 9/21(木) └
- 9/22(金) ┌ 委員会 環境建設委員会
- 9/25(月) └
- 9/26(火) ┌ 委員会 文教厚生委員会
- 9/27(水) └
- 9/28(木) ┌ 委員会 経済委員会
- 9/29(金) └
- 10/3(火) ┌ 本会議 一般質問
- 10/4(水) └
- 10/5(木) 委員会 各常任委員会 決算行政評価特別委員会
(態度決定)
- 10/6(金) 本会議 委員長報告 討論 採決 閉会



小泉あつしの質問

一般質問

①高齢者や障害者の境界線のない共生型社会の実現「ゼロ・ボーダー」

共生型サービスの拡充・推進について

(小泉あつしの質問)

共生型サービスは高齢者だけでなく障害児・者など多様な利用者が共に暮らし、支え合うことで、地域共生社会を推進するためのきっかけになり、介護分野、障害福祉分野のいずれにおいても深刻化する人材不足の助けにもなると考えられる。共生型サービスの拡充・推進について課題をどのように捉え、今後どのように取り組んでいくのか。

(池田知事の答弁)

共生型サービスの拡充は、地域共生社会の推進や人材確保対策などの観点から、非常に有意義であると考えており、これまでも共生型サービスの制度の周知を行ってきた。今後、介護・福祉両分野の事業所に県内事例を紹介し、新規参入を促すなど、普及に向けた取組みを実施したい。

②無農薬の有機農業の普及「ゼロ・ケミカル」
有機農業の普及・拡大について

(小泉あつしの質問)

世界の有機産業の取組み面積は倍増傾向にあるが、国内では大きく遅れている。農水省が有機農業の取組み面積を2050年までに25%に拡大させることを掲げ「オーガニックビレッジ」を普及させる産地づくりを推進し、三豊市が今年度、取組みを開始した。

有機農業の普及やオーガニックビレッジに取り

組む市町への支援などどのように取り組んでいくか。

(池田知事の答弁)

有機農業の普及・拡大を図る為には、草刈りなどの省力化の技術導入と、消費者や流通関係者への理解促進の2点が重要と考えている。オーガニックビレッジについては計画策定に向けた技術的助言を行い、多くの市町が取り組むよう積極的に働きかける。

③発酵食品による免疫力強化を通じた発病

予防「ゼロ・デジーズ」

発酵食品関連産業の活性化について

(小泉あつしの質問)

発酵食品は、人体の免疫力強化の視点で、これからの可能性が大きい。

発酵食品研究所を中心に、大学などの研究機関や、小豆島の食品関連事業者との連携を強化することで、更なる発酵食品の研究・開発を推進すべきと考える。今後の更なる発酵食品産業の活性化について、産学官連携による取組みなどを含めて伺う。

(寺嶋商工労働部長の答弁)

これまでも消費者のニーズに合った製品開発の共同研究など令和元年度以降17件の実績があり、地元食品業界を支える人材育成も行っている。今後とも、地元食品業界のニーズや意見を踏まえ、大学等の関係機関と連携し、時代に即した試験研究に取り組んでいく。

④再生可能エネルギーの導入促進による脱炭素化「ゼロ・カーボン」

小水力発電の導入検討について

(小泉あつしの質問)

「香川県地域脱炭素ロードマップ」には、多様なエネルギーの導入検討の取組みとして、県管理ダムにおける小水力発電の導入検討が挙げられ

ている。

内場ダム、椋川ダム以外の県管理ダムでも、小豆郡の吉田ダムなど小水力発電の導入可能性が見込まれるが、これまでの導入検討状況また今後の導入検討について伺う。

(竹内土木部長の答弁)

小水力など、太陽光以外の再生可能エネルギーも、導入可能性の検討を進める必要がある。椋川ダムでは早期に導入を進めることとなった。雨が少なく、ダムの集水域が比較的狭い本県では現在実施中の内場ダムの導入可能性調査の結果を踏まえた上で、他のダムについても、小水力発電の導入可能性を検討する。

⑤小豆医療圏における

周産期医療体制の整備について。

(小泉あつしの質問)

小豆島中央病院で分娩を一手に担ってきた産婦人科常勤医師が今年度末に定年を迎える。小豆島で出産を希望する人が、これまでと同じように島内で子どもを産み育てる環境が維持されるよう、小豆医療圏における医師確保のためどう取り組むのか、また島外での分娩により発生する追加的費用について、県としても助成すべきではないかと考えるが、知事の考えを伺う。

(池田知事の答弁)

私としては、できるだけ島内で分娩が取り扱える体制を維持したいと考えており、この考えを前提として、香川大学医学部、両町、小豆島中央病院、県立中央病院などと緊密に連携し、土庄・小豆島両町の皆様が安心して出産できるよう、全力で取り組む。島外での分娩で新たに発生する費用負担についても、協議していききたい。

総務部代表質問

⑥私立高校の保護者が負担する学費への県からの支援について

(小泉あつしの質問)

香川県の入学金支援の単独補助は、今年度予算額5155万円を計上しているが、他県ではより多くの補助がある。保護者の自己負担の減少、公私立学費格差を解消する取組みの拡充について知事の考えを伺う。

(池田知事の答弁)

本県の厳しい財政状況を考慮すると国からの対応も必要で、「就学支援金制度の更なる拡充・見直し」を図るよう要望しており、若者が経済的理由で就学や学力向上を図る機会を失うことがないように引き続き努力していききたい。

⑦災害ボランティアセンターの設置及び運営に係る協定について

(小泉あつしの質問)

被災時に災害ボランティアセンターを設置するための協定を全ての市町に促していく必要がある。また被災時を想定した訓練の実施など、今後の取組みはどうか。

(池田知事の答弁)

昨年の12月に県レベルでの協定を締結した。今後は行政と社会福祉協議会とボランティア団体による3者連携訓練の実施、県版の運営マニュアルの策定など被災時において全県的な災害ボランティア支援体制が構築できるように進めていきたい。

*文字数の関係で一部を抜粋・要約して掲載しています。全文はホームページにて公開いたしますので、詳しくご覧になりたい方はぜひホームページをご確認ください。

定例会を終えて感じたこと

県議会議員として、どう皆様の力になれるか、まだまだ分からないこともたくさんあり、日々精進し学ぶことばかりです。そんな日々の中で気がついた確かなことは、知事も議員も職員も、みんな同じ人間で、好きなこと、嫌いなこと、得意なこと、苦手なことがあり、何に価値観を置いているか、何を優先にするかは、一人ひとり違うということです。

私が「困っている人の声を届けたい」「島を盛り上げたい」と思って住民のみなさんの声を代弁しても、その政策を実行する人が私の意見について「それいいね」「やってみよう」と思わなければ、いつまでも実現には至りません。

小泉あつしは、飾りで県議会議員をやっているわけではなく、ガス抜きのために声をあげるつもりもなく、困っている人の力になるために、その想いを実現するために県議会議員をやっています。

そのためには、誰が政策決定者であるか、その人はその政策分野において誰の言うことを聞くのか、その実現のためにはどこから埋めていけばいいのか、どこで何を言ったら誰がどう動くのか、を把握している必要があります。

この点、2回目の定例会を終え、いくつかの場面で手応えを感じています。

一つ目は、小豆島中央病院でのお産の体制について一般質問で、

知事が「私といたしましては、小豆医療圏の周産期医療について、できるだけ島内で分娩が取り扱える体制を維持したい」と述べてくれて、直接の知事の意向を答弁として引き出すことができました。

この課題については、今後も今までと同じようにお産できる体制をとれるよう、引き続き県に働きかけていきます。二つ目は、総務委員会での災害ボランティアセンターに関する質問について担当課長と話していた時のことです。私の要望が担当課の現在進行中の取組みと偶然にも一致しており、担当課長は目を輝かせて説明して、取組みを実効的にするとお話してくれました。私にも課長の熱量が伝わり、無意識に深々と頭を下げて謝意を表していました。三つ目は、ゼロアイランド構想の表明についてです。これを質問の大枠の項目としてタイトルに入れ、具体的な小問の前文に置くことができました。この構想についてはまだ粗削りであり、今後、各関係機関と意見交換しながら、具体性を伴った内容にしていく必要がありますが、なるべく早いタイミングで小泉あつしのビジョンを示すことが大切だと思っていました。ビジョンを実現するには大変多くの方の協力を必要とし、そうした方々をつなぐ必要があるからです。実際、(構想と何の関係もないと思われる)課の課長から「今日、自室からライブ映像を見ておりました。小泉先生の想いが伝わりました。」といったフィードバックもありました。お話すると、けっこうインテリ系で未来志向型の課長だったので、今後、心強い存在となってくれそうです。小泉あつしがゼロアイランド構想というビジョンを有しているということをもっともっと多くの方に知ってもらい、意見交換することによりさらに具体性を肉付けしていけるよう、継続的に取り組んでいくつもりです。



小泉あつし プロフィール

昭和57年 9月20日京都府京都市生まれ
平成13年 京都府洛北高校 卒業
平成18年 立命館大学法学部 卒業
平成24年 青山学院大学大学院 法学研究科修士
平成25年 障害福祉サービスに5年間従事
平成29年 小豆島へ家族で移住
平成30年 あすなろの家 職業指導員、
せいけんじこども園 保育士
令和2年 児童福祉サービス
アースハーモニー管理者
令和5年 香川県議会議員 初当選

趣味：DIY、登山、家庭菜園、断食、英会話、ピアノ
ギター、SUP、読書、子どもと遊ぶこと、カラオケ
好きな言葉：上善は水の如し

小泉あつし公式 HP はこちらから



koizumiatsushi.com

小泉あつし事務所のご案内

草壁にある小泉あつし事務所は住民相談、県議の仕事の説明、住民の憩いの場として開放しています。

また定期的に報告会、住民相談会なども行っています。

活動報告などの資料もあるので、県議の仕事が気になる方、ご意見などある方、どなたでもお気軽にお越しください。

人々が集まる場所になれるよう、温かい空間を作っていけたらと思います。

小泉あつし事務所

〒761-4432 香川県小豆郡小豆島町草壁本町1053-3

TEL: 070-9229-5202 開所日: 月・水・金 9:30~12:30



ぜひご参加ください!

- 次回議会報告会のご案内 - 11/5 (日) 10:00~12:00
池田公民館 (イマージュセンター) 視聴覚室にて開催いたします。

